

Contents

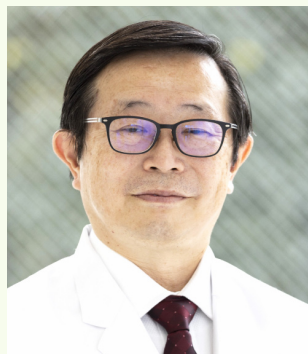
- ・ 病院長のご挨拶
- ・ PFM センター長のご挨拶
- ・ 「肥満外来」予約枠拡大のお知らせ
- ・ 新規就任教授のご紹介



編集：杏林大学医学部附属病院
杏林学園広報室
〒181-8611 三鷹市新川 6-20-2
Tel. 0422-47-5511(代表)



◆ 病院長のご挨拶



2026年度は30年ぶりの+3%の診療報酬改定となりましたが、物価・人件費高騰、急速な超高齢化等に加えて不安定な国際情勢の影響も想定され、医療現場はほっと一息つく間もない状況です。

近年の救急搬送患者の病態の変化、即ち二次搬送でも脳卒中や虚血性心疾患等で迅速な高度専門治療を要する症例、逆に三次搬送される高齢者の中にはACP情報などからは高度急性期治療を望まれない症例なども増えております。杏林大学病院では、フルタイムで活動する地域の高度急性期病院としての役割をより一層果たすべく、今年度からは1～3次救急を救急総合診療科（ER Team）でシームレスに対応いたします。そして、同時に地域の病院との連携をより一層強化してまいります。また、専門医療の予定入院においては、下記の久松センター長のご挨拶にもありますように、4月よりPFMセンターが活動を開始しております。

これらの取り組みにより、時代に即した「地域に根差した大学病院本院」としての診療に取り組んでまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長 近藤晴彦

◆ PFMセンター長のご挨拶



平素より当院と医療連携を取っていただき有難うございます。

2026年4月よりPFMセンター（Patient Flow Management Center）がスタートします。PFMセンターは医療連携、入退院支援、周術期管理、各種患者相談窓口（がん相談や遺伝カウンセリングを含む）を統括する部門になります。またセンター内にはコマンドセンターが設置され、院内病床稼働状況をリアルタイムで把握することが可能です。これにより、入院前支援、ベッドコントロール、退院後支援を一連の流れとして効率的に把握・管理することが可能となり、患者さんへの良質な医療の提供および職員の負担軽減に繋げることができます。また病床管理の効率化により救急車応需率をさらに向上させ地域医療に貢献していくことが期待されます。

PFMセンターではこれまで以上に地域医療機関と連携しながら患者さんの外来受診、入院、退院後の医療・療養環境の調整、その他諸々の支援を行ってまいりますので宜しくお願い申し上げます。

PFMセンター長 久松理一

「肥満外来」予約枠拡大のお知らせ

当院の糖尿病・内分泌・代謝内科では、食事療法・運動療法に加え、薬物療法を含めた内科的治療を専門とする「肥満外来」を毎週水曜日の午後に開設しております。このたび、ご紹介患者様の増加に伴い、**循環器内科においても毎週金曜日の午後に「肥満外来」を新たに開設いたしました。**両科は緊密に連携して診療を行っており、いずれの外来でも同様の治療を受けていただけます。

受診を希望される方は、原則として他の医療機関からの「紹介状（診療情報提供書）」をご持参のうえ事前に予約をお願いいたします。ご都合に合わせて曜日のご希望を承ります。

※当院では『肥満症の効能又は効果を有する製剤の最適使用推進ガイドライン』に基づき、保険診療での治療を行います。（**自費診療での薬剤処方を行っておりません**）そのため、**適応条件に該当しない方には薬物治療をご提供できない場合があります。**

糖尿病・内分泌・代謝内科
循環器内科

新規就任教授のご紹介

2026年2月



高齢診療科、もの忘れセンター（臨床教授） かめやま ゆみ 亀山 祐美

東京女子医科大学医学部医学科卒業
東京大学大学院医学系研究科修了 博士（医学）

東京大学医学部附属病院老年病科、内閣府などを経て2026年杏林大学医学部高齢医学教室着任

認知症疾患医療センターとして鑑別診断および新規アルツハイマー病治療薬の投薬を行っております。高齢診療科ではマルチモビディティ高齢者の入院加療と退院支援に注力し、急性期から退院まで切れ目のない診療・ケアを実践しながら、地域の先生方と連携し医療体制の充実を目指します。どうぞよろしくお願いたします。

2026年4月



乳腺外科（教授） まつもと あきこ 松本 暁子

慶應義塾大学医学部卒業
慶應義塾大学大学院医学研究科 博士（医学）

慶應義塾大学医学部一般・消化器外科、帝京大学医学部外科などを経て2025年杏林大学医学部乳腺外科学教室着任

乳がん診療は、手術・薬物療法・放射線治療をはじめとする集学的治療に加え、患者さん一人ひとりの病状や価値観に寄り添った医療が求められる分野です。今後は、患者さんが安心して質の高い医療を受けていただける診療体制の充実にも努めるとともに、西東京地域における唯一の大学病院（本院）として、多摩地区の乳がん診療を支える中核的役割を果たしてまいります。

2026年4月



医療管理学／脳神経外科（臨床教授） のぐち あきお 野口 明男

杏林大学医学部医学科卒業
博士（医学）

杏林大学、オレゴン健康科学大学などを経て2010年杏林大学脳神経外科学教室着任

医療管理学の視点から質の高い医療提供体制の構築に努めるとともに、脳神経外科の臨床・研究の発展に尽力してまいります。今後も教育・研究・診療のさらなる充実を図り、社会に貢献できるよう精進してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2026年4月



医療管理学／脳神経外科（臨床教授） まるやま けいすけ 丸山 啓介

東京大学医学部医学科卒業
博士（医学）

東京大学脳神経外科、ピッツバーグ大学留学などを経て2008年杏林大学脳神経外科学教室着任

杏林大学に赴任以来、脳神経外科診療に加え、電子カルテの運用管理や医療DXの推進に携わって参りました。AIやスマートフォン等の新技術を活用し、安全性と効率性を両立した医療環境の構築に努めるとともに、臨床教育および人材育成にも貢献して参りたいと存じます。

今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

2026年4月



統合生理学（病院病理部・病理診断科）（教授） はやし あきまさ 林 玲匡

東京大学医学部医学科
東京大学大学院医学系研究科 博士（医学）

虎の門病院、東京大学医学部附属病院 病理部、メモリアル・スロンケタリングがんセンターなどを経て2020年杏林大学医学部病理学教室着任

私はこれまで肝胆膵領域の腫瘍性疾患を中心に病理学の分野で研鑽を積んでまいりました。膵癌の克服に向け、病態解明と新たな診断・治療法の開発に取り組みます。統合生理学教室では病理学的知見を活かし、生理学的概念を融合した研究と教育を推進し、医学の発展と社会貢献に努めます。